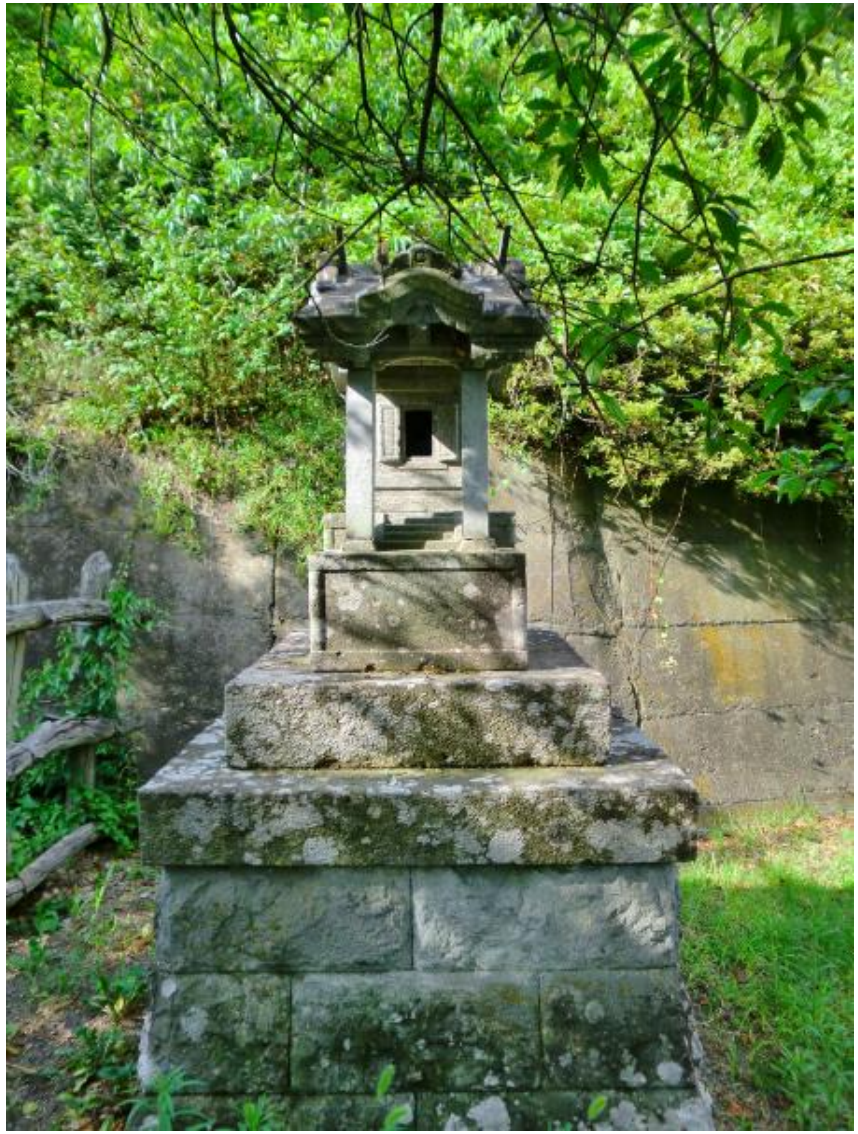
荒砥城跡（千曲市）

途中にある「上山田國旗掲揚塔」と祠



上山田國道橋梁碑

五輪塔・多宝塔・宝篋印塔
（カイ）今里地籍出土一今里式が初例か
これらの石塔は、インドなどで造られたストゥーパ（お釈迦様の遺骨・仏典などを埋納し供養するために造られた墓のこと）に源を発し、日本では平安後期ごろ密教寺や墓塔として、平安時代から造られ始めたものです。
この五輪塔・多宝塔・宝篋印塔は、万石の今里地籍の調査によって出土したものであって、一部分が欠しく復元されて完形となっています。宝篋印塔には、「応永二十九年」（1422）との紀年銘があり、製作された時期が明確です。従って、和上氏の五輪塔や宝氏の宝篋印塔は貴重な資料と知れるものです。また、今里遺跡からは大量の埋蔵銭、石造の五輪の破片や板碑の破片も出土し、注目されています。
古墳群とともに、中世墓塔の出現は世界をひいと寄ることができる貴重な資料です。

自ずと知れるものです。また、今宮遺跡からは火葬の骨蔵器、古墳戸坂輪の瓶子や板碑の破片も
出土し、注目されています。
仏像群とともに、中世豪族の仏教的世界をかいま見ることができる貴重な資料です。

五輪塔・多宝塔・宝篋印塔

（力石　今里地籍出土＝今里氏居館跡か）

これらの仏塔は、インドなどで造られたストゥーパ（お釈迦様の遺骨＝仏舎利などを奉納し供養するために造られた塔などのこと）に端を発し、日本では卒塔婆など供養塔や墓標等として、平安時代頃から造られ始めたものです。

この五輪塔・多宝塔・宝篋印塔は、力石の今里地籍の調査によって出土したものであって、一部分が新しく補充されて完形となっています。宝篋印塔には、「応永二十九年」(1422)との紀年銘があり、製作された時期が明確です。従って、村上氏の支族今里氏の活動した時間的な位置も自ずと知れるものです。また、今里遺跡からは火葬の骨蔵器、古瀬戸灰釉の瓶子や板碑の破片も出土し、注目されています。

仏像群とともに、中世豪族の仏教的世界をかいま見ることができる貴重な資料です。